

平成31年度(2019年度) 県立 境 高等学校 自己評価表

目指す 学校像	本校伝統の文武不岐の教育方針の下、豊かな人間性を培い、深い知性と逞しい心身を養うとともに、自主自立を涵養し、グローバル人材〔地球規模で考え、地域に貢献できる人材〕を育成する学校づくりを行う。 (1) 「生きる力」を身につけ、生涯にわたって学び続けるための基礎基本を身に付けさせる学校 (2) 進路指導を充実し未来を切り拓く力を育成しながら、幅広い希望進路を実現させる学校 (3) 規律を遵守する精神と望ましい生活習慣を確立させる学校 (4) 保護者・同窓会・地域と連携して生徒の健全育成に努める学校 (5) グローバル人材の素地となるスキルと感性を培う学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>昨年度の国公立大学合格者数は9名、私立大学の延べ合格者数は約200名と、合格者総数について大きな伸びはなかったが、GMARCHと呼ばれている難関私立大学合格者は増加した。成績上位層を中心に確実に学力をつけさせている。本校では就職・専門学校から国公立大学を希望する生徒まで幅広く存在し、進路指導の焦点は絞りにくいが、きめ細やかな指導で進路決定を進めている。今年度は新学習指導要領をふまえたカリキュラム、授業改善、教育環境の整備をさらに進めて、「新テスト」への対応に万全を期す。</p> <p>一方部活動においては、陸上競技部、水泳部、弓道部、吹奏楽部が関東大会に出場、そしてサッカー部や野球部が大会で結果を残し、周囲の耳目を集めた。また英語部員が米国に派遣されたり、応援団リーダー部の活動がマスコミに取り上げられたりするなど、多くの部が熱心に活動し、高校生活に活気をもたらした。今後も継続して部活動の発展に尽力したい。</p> <p>生徒指導に関しては、マナーアップ週間を毎月設けて服装容儀指導の強化や交通ルール等の規範意識の向上に努めている。今後も自転車・バイク通学者の違反・事故の指導に力を入れていく。</p>	1 「常に考える」生徒の育成	① 授業の工夫・改善に努め、読解力と思考力を育み能動的に学ぶ力を養う指導に取り組む。 ② 出張・年休等の授業振替の100%実施を目指し、授業時間の確保に努める。 ③ 各教科の授業研究（授業公開等も含む）を積極的に推進する。 ④ 学習評価を研究するとともに、効果的な教育課程編成を進める。	B
	2 初志貫徹の進路設計・進路実現	⑤ 進路情報の収集と適切・的確な提供をしつつ、効果的な進学指導に努める。 ⑥ 大学等と積極的に連携し進路意識の高揚を図る。 ⑦ キャリア教育の充実を図り、自己理解の深化と早期の目標設定ができることを目指す。 ⑧ 面談等を通して生徒の志望と個性・特性を見極めた適切な進路指導に努める。	B
	3 正しい生活習慣の確立	⑨ 基本的な生活習慣の涵養に努める。 ⑩ 服装・頭髪・容儀指導に努め、「さわやかマナーアップ事業」を推進する。 ⑪ 個別面談や教育相談を通じて生徒理解に努め、生徒との信頼関係構築に努める。 ⑫ いじめ等の未然防止と早期解決を図るための指導を行う。	A
	4 学校生活の充実と「豊かな心」の育成	⑬ 健康教育の推進に努め、心身の健康及び安全の維持・増進を図る。 ⑭ 生徒会活動・部活動及び各種ボランティア活動など生徒の自主的・自発的な行動を積極的に支援する。また、それらの活動を通して、生徒のコミュニケーション能力を育む。 ⑮ 運動部活動・文化部活動の振興を図り、部活動参加者等に配慮した学習環境の整備に努める。 ⑯ 読書活動を積極的に推進し豊かな人間性を培う。	A
	5 地域に信頼される学校づくり	⑰ P T A活動を充実させ、家庭教育の重要性の理解・啓発に努める。 ⑱ 保護者や地域住民等への授業公開を積極的に推進する。 ⑲ 近隣中学校や地域への広報活動及び連携強化を図る。 ⑳ 近隣小学校・中学校等への学習支援活動に積極的に取り組む。	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
教科指導 (教務)	授業時間の確保	出張・年休に伴う授業は、確実に振替授業を行い、1単位35時間の授業確保に努める。また、チャイム着席を励行する。②	A	・行事を精選し、授業時間確保に努める。 ・新学習指導要領を見据えた教育課程と評価について継続的に検討を重ねる。
		定期考査・学校行事等に伴う授業日数の曜日に関する不均衡を是正するよう配慮する。②	B	
		行事を見直し、授業時間確保に努める。②	B	
	特色ある教育課程の編成と運営および学力の向上	生徒に身に付けさせたい資質・能力などを明確にし、生徒の多様な進路に応じた教育課程を編成する。④ 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業改善を推進し、生徒の思考力・判断力・表現力等の育成を図る。①③	B	
教科 国語	基礎学力の向上を図る	小テスト・プリントなどを利用して、学習の理解度を把握し、不十分な生徒には補習を実施し、基礎学力の向上及び定着を図る。①	A	・読書活動の推進。 ・受験対策や教材研究、課題点検のための時間の確保。 ・3年次現代文の単位数の検討。 ・国語総合の持ち方の再考。
		生涯にわたって学び続けるために基礎基本を身につけさせるとともに、読書活動を推進する。⑬	B	
	家庭学習習慣の定着に努めるとともに実践的な力を養う	課題を定期的に点検し、家庭学習の習慣を身につけさせる。①③	B	
		課外授業を実施し、さまざまな進路に対応できる実践的な力を養う。①	A	
	分かる授業を展開するために改善に努める	教科内での授業研究や、各種研究会への積極的な参加を通して、授業内容や方法の改善に努める。①③④	B	
		生徒自らが課題を持って能動的に取り組む授業環境を整え、読解力と思考力を育めるような発問や学習課題の工夫を図る。①③	B	
教科 地歴公民	わかりやすい授業の展開を工夫する。	副教材、その他の資料を活用し、生徒が具体的なイメージを持ちやすい授業を展開し、社会問題に対する関心を高める。①②③	A	・自宅学習が長期的な見通しで行われておらず、生徒への声かけが必要。
	基礎学力の着実な定着をはかる。	小テストや課題を実施し、新しい知識や考え方の定着をはかる。④	B	
	実践的な力を養う。	模擬試験等を有効活用し、大学進学に対応できる実践的な力を養う。④⑧	A	
教科 数学	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。	学習に対する意識や基礎学力を正確に把握し、個々に応じ適切に指導する。①	A	・課題の質と量の調整 ・効率よく授業を進める工夫と情報交換 ・新学習指導要領に向けた観点別評価の方法の検討 ・基礎基本の徹底
		教科指導の工夫により、わかる授業を展開し、毎日の授業に集中させる。①	B	
		量、質共に適切な課題を与え、提出などを通して家庭学習の習慣化を図る。③	B	
	事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすと共に、それらを活用する態度を育てる。	数学的な見方や考え方の良さが実感できるような教材の精選と授業内容の工夫・改善を図る。①	A	
		課外授業で問題演習の時間を多くとり、高度な数学の技術を身に付けさせる。③	B	
		各種研修会に積極的に参加したり、大学共通テストに向けての問題を教科会で発表したりすることで、自己研鑽に努める。③	B	
教科 理科	基礎学力の向上を図るとともに、特に理系コースの進学に対応した指導を目指す。	定期的な小テスト等により、生徒の理解度を把握することに努め、不十分な生徒へは補習等実施する。①	A	・1,2年次に実験実習を取り入れたいが、授業時数が足りない。 ・参加した研修内容や授業の指導方法について、教科会を開く。
		課外等で大学進学に十分対応した学力を身につけさせる。①	B	
	興味・関心を持てる授業に努める。	教材や授業内容・指導方法について教科内で定期的に研究協議する。③	B	
		各種研修会に参加し、教科内で内容を共有するとともに自己研鑽に努める。③	B	
実験実習を取り込み、授業理解の手助けをする。	実験実習を計画的に実施し、授業内容の理解を深める。実験内容・方法について教科内で検討し、改善を加えていく。①	B		

教科	保健 体育	健康・安全についての理解を深めさせ、自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。	生活習慣、喫煙・飲酒、薬物、交通事故、性行動、環境問題、福祉問題などについて、より身近な問題として実感できるような教材（インターネットの活用・時事問題等）を提供することによって、自分や自分を取り巻く健康問題について考える力をつけさせる。	①⑬	B	B	・ICTを活用した授の推進 ・自発的な活動の推進 ・運動能力に応じた実技指導の工夫	
		生徒の基礎体力の向上を図る。	体ほぐし運動・体づくり運動を積極的に取り入れることにより、基礎体力の向上を図る。	①③⑬	A			
		生徒が運動・スポーツの楽しさや喜びを実感できる授業展開に努める。	いろいろな球技種目を体験させることにより、「マイ・スポーツ」の獲得を実現させる。	①	A			
			クラスマッチと関連させ、チームの編成や役割分担、勝つための練習の工夫など自立した取り組みへの支援を行うことで、生徒により質の高い競技会を体験させる。	①④	B			
教科	芸術	主体的な表現活動に必要な基本的知識・技能の定着を図る。	基本的な演習等を継続的に取り入れることで、幅広い領域における表現活動の質を高められるようにする。	①③	B	A	・教科内研修を通じた授業の工夫改善。 ・作品発表や演奏発表を行い、言語活動を充実させることで生徒相互理解や相互評価ができるようにする。	
		評価規準を明確に設定し、客観的評価の方法を追求する。	ワークシートの活用や活動の観察評価等の記録を充実させることにより、評価規準を踏まえた観点別評価を実施する。指導と評価の一体化を目指し、生徒の表現意欲や表現能力を引き出すための工夫と評価規準の設定をする。	④	A			
		生徒の実態にあった教材の精選や指導法、授業展開方法を研究する。	生徒の表現意欲を高めるための授業展開方法を常に模索し、生徒が興味関心をもって取り組むことができる教材の精選や教材作成に努める。	③	A			
教科	英語	基礎学力の定着を図る。	小テスト、ノートチェック等を利用して学習の理解度を把握し、個々の生徒に応じた指導を行う。	①③	A	B	・外部試験の対応 ・ICTの活用とアウトプットを積極的に。 ・年間計画、三カ年計画を立てる。それにより、シーズンテーマを設定する。3年は自走できるように。	
			学習内容の定着のために、教材を精選し、授業内容の工夫・改善を図る	①②	A			
			校外オリエンテーション時において、基礎学力の定着を図るため、高校での学習に対処できる心構えを身につけさせる。	①	B			
		家庭学習習慣の確立に努める	担任との連携を含め、週間課題等を利用して、家庭学習時間を確保するための指導を徹底する。	③	B			
		生徒の習熟度に応じて、より高度な英語力の育成を目指す	徹底した問題演習により、上・中位層の増加を図る。	①	B			
			実用英語検定試験受験などを契機に、資格試験に前向きに取り組ませるとともに、英語学習へのモチベーションを高める。	①③	A			
ALTを積極的に活用し、コミュニケーション能力を高めるとともに、異文化への興味・関心を深める。	②		B					
教科	家庭	「生活者」としての自立を目指し、生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせる。	定期考査・実技・小テストにより、理解・定着度を把握し、不十分な生徒には補習を実施する。	①	B	B	・ICTの活用 ・実習においては基礎基本の習得の手立てを工夫する。	
			学習したことを日常生活に生かせるような課題やホームプロジェクトの実践をさせる。	①	B			
			授業のワークシート・課題レポートを定期的に点検する。	①	A			
			実験・実習を中心とした授業を展開し、男女が協力して家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	授業で理解した知識を元に協力して実験・実習に参加できるよう指導方法を工夫する。	①④			B
				常に生徒の興味・関心を高めるようなワークシート作りを心掛ける。	①			A
				指導方法の工夫を図るため各種研修会に積極的に参加し、様々な角度から自己研鑽に努める	③			B
教科	情報	基本的な知識と技術を身につける。	人や新聞、本、情報通信ネットワーク上の資源などの活用を通して、情報の適切な収集・処理・発信のための基礎的な知識や技術、考え方を習得させる。	①③⑦	A	A	・教材研究をする時間を確保し、新しい教材づくりをしたい。	
			情報を適切に処理し発信できる力を育成する	身近な題材を取り上げて、適切な表現形式を用いて効果的な作品やレポートを作成する練習をする。	①③			A
				生徒同士が協力しあって体系的な作品を作りあげる経験をする。	①③⑤⑦			A
			情報モラルを踏まえた判断をできるようにする。	現実に行っている事件の推移を調べるなどを通して、個人情報の取り扱いや著作権について、その行動のあり方について、いろいろな立場から考えさせる。	①③⑨⑫			A
作品やレポートの評価を工夫する。	生徒の提出する作品やレポートを成績に組み込む方法について、自己評価の可能性を検討するなど、工夫する。	④	A					

教務	校内の連携と教育活動の円滑化	各学年・各部・各教科との緊密な連絡調整を図り、本校教育活動の円滑化に努める。 ①②③	B	B	・授業改善のための校内研修の更なる充実を図る。 ・ICTが活用できる教室、教具の整備を進める。
	校内諸データの整理・活用および広報活動	学校全体の教務関係データの管理及び活用を図る。 ③④	A		
		学校案内等の充実をはかり、中学校・地域との連携を図る。 ⑱⑲⑳	A		
	校内研修の充実	教科を超えた相互授業参観等、教科研修その他教職員の各種研修の充実、推進を図る。 ①②③④	B		
教育活動円滑化のための環境整備	教材・教具・各種備品等を常に活用できるよう、適切な整備、保持、管理に努める。特にICTが活用できる環境作りに尽力する。 ①②	B			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	マナーアップ事業と連携し、規範意識の昂揚に努める。 ①②⑨	B	B	・教員の共通理解に基づく指導体制の維持 ・自転車・バイク通学者の違反・事故の指導の継続 ・校内諸規程の見直し
		マナーアップ週間を意識付けとして、服装容儀指導の徹底を図る。 ①②⑨	B		
		登校指導を通して、遅刻の防止・時間厳守の意識の向上に努める。 ①②⑨	A		
		保護者との連携を密にし、協力して指導に当たる。 ⑰	A		
	交通安全教育の推進	いじめ未然防止に努める。 ⑨⑪⑫	B		
		関係諸機関・団体と連携し、交通安全教育の徹底を図り、事故防止に努める。 ⑬⑱	B		
		ホームルームや集会等を有効に活用し、交通ルール・マナーの徹底を図る。 ⑬⑭	A		
指導体制の確立	自転車・バイク点検、安全運転講習会を実施し、危険予知・危険回避能力の向上に努める。 ①⑦⑬	A			
教職員の共通理解に基づく全校指導体制の確立を図る。 ②⑦	B				
進路指導	学習習慣の確立	家庭学習時間の確保。進路希望調査やスタディサポートを分析し、家庭学習時間の確保を呼びかける。 ⑤	B	B	・教育改革を見据え、学校全体で指導にあたるマニュアル等を作成する。 ・種々の進路情報の収集を図るとともに、模擬試験データを十分に分析し、個人面談の充実を図る。 ・多様な進路希望の実現を目指し、早期からの指導体制の確立を図る。
	キャリア教育の充実	将来を見据えた系統的なキャリア教育を、LHRや総合的な学習の時間を中心に実施する。 ⑤⑥⑦	B		
		進路の方向性の早期決定を目指し、進路講演会や進路ガイダンス等を実施する。 ⑤⑥⑦	A		
		各種の進路情報及び資料を提供するとともに、進路室・閲覧室を開放し進路相談に積極的に応じる。 ⑤⑦⑧	A		
	進学指導の充実	1学年から、平常・長期休業中の課外を実施し、入試に対応できる実力を養成する。 ③	A		
		模擬試験の成績データ等を分析し、進学指導にあたる。 ⑤	B		
		蛍雪学習館・閲覧室を開放し、自学自習を支援する。 ①	A		
		進学意識の高揚を目指し、個人面談を積極的に実施し、個に応じたきめ細かな指導を行う。 ⑧	B		
		境高校の進学指導を蓄積し、進路実現につとめる。 ⑤	B		
	就職指導の充実	企業での就業体験(インターンシップ)を実施し、労働の意義を考えさせる。 ⑦	A		
就職及び公務員試験合格のため、履歴書の書き方や面接等の指導を行う。 ⑦		A			
保護者への広報・啓発	面談資料を作成・配付する。また、保護者向け進路講演会を実施する。 ⑤⑰	A			
保健	心身の健康保持・増進	健康教育の推進と保健室の効果的な運営を図る。 ⑬	A	A	・危機管理体制の確認と更なる安全管理の意識高揚 ・空調設備の適切な使用
		防災避難訓練等を通して、生徒の安全意識の高揚を図る。 ⑬	A		
		担任や学年と連携を図り、心身の健康に不安のある生徒の把握と適切な指導等に努める。 ⑪⑫⑬	A		
	学習環境の整備	教室等の清掃指導や清掃監督者の要望に応じた用具の補充・管理を行う。 ⑬	A		
		空調機器使用に伴う教室内の温度・湿度・二酸化炭素濃度に留意し、環境の整備に努める。 ⑬	B		
委員会活動の支援	保健委員・整備委員を中心に、ボランティア活動の活性化と環境やモラルの向上に努める。 ⑭	A			

特別活動	学校行事等を通じた帰属意識・協調性の涵養	生徒を主体とした学校行事の企画・運営を行う。 ⑭ A	B	・部活動・行事等における生徒の主体性の養成と共に、学校生活への影響力を高める ・生徒会の在り方と特活教員との連携
		校内発表会・クラスマッチ等を通して、充実感や達成感を体験させ、責任感・クラスの連帯意識を養う。 ⑭ A		
	部活動の活発化	部活動の加入率を上げるとともに、活発化を図る。 ⑮ B		
		生徒の自主性・自発的な活動を支援する。 ⑭⑮ B		
図書	図書館利用の推進	生徒の学習活動や教員の研修がよりよく進められるよう、図書館の整備に努める。 ①③⑤⑦⑯ A	A	・図書館利用の更なる推進 ・図書委員会活動、放送委員活動の充実
		各教科の職員との連携を密にするとともに、生徒への利用指導の充実に努める。 ①③⑯ B		
	図書委員会活動の活発化	読書会・カウンター当番活動や「ふみごよみ」の発行・図書館のレイアウトの工夫等を通じ、利用促進の広報を行う。 ⑯ A		
	放送設備の整備・管理	放送・視聴覚機器の保全・管理を行い、積極的活用を図る。 ⑭ A		
	放送委員会活動の活発化	集会時や雪祭、クラスマッチ等の放送機材の設置・操作に委員会生徒を積極的に活用する。 ⑭ A		
渉外	PTA行事への参加率の向上	PTA総会、支部総会、各種PTA行事を通して、参加した保護者への便宜を図る。 ⑰ B	B	各種行事へ積極的に参加いただけるように内容をさらに検討したい。
		各行事の実施方法・内容について検討し、保護者・職員の負担も配慮する。 ⑰ B		
	PTA活動の充実	進路講演会の開催など保護者の参加意欲を喚起するような取り組みを計画する。 ⑤⑰ A		
		支部研修会活動にも協力し、研修の成果を全体へ伝達する。 ⑰ B		
PTA活動を通して家庭・地域社会との連携を図る。	生徒指導部との連携を図り、生徒指導委員と登校指導・校外巡視を行い、生徒の実態把握を図る。保護者・職員間の情報交換を行い、共通理解のもとに、協力体制を確立する。 ⑨⑩⑰ A			
1年	進路指導の充実とよりよい進路決定を図る	進路決定のためのオリエンテーション、ガイダンス、進路別学習を通して、自己理解と自己の適性を深めることができるようにする。 ⑤⑥⑦⑧ A	A	進路実現のための具体的手立てと指導体制の確立。
		進路決定の際には、生徒・保護者・教員が相互補完的にかかわることで、生徒自身がよりよい選択と決定ができるようにする。 ⑤⑥⑦⑧⑰⑱ A		
	英数国に重点を置いた学習支援体制の確立	英語の習得目標……(1)中学英単語(文科省必須語数1200語・中学卒業程度約2000単語)・高校新出英単語約1800単語の暗記、(2)夏休みに入るまでに中学英文法の完全習得、(3)音読と暗唱による英語学習の定着を図り、英検合格を目標とする指導体制の確立。生徒は、最低でも英検準2級合格・大学進学志望者は最低でも英検2級を合格できるようにする。 ①②③④ B	B	・共通テストに向けての動きを注視し、方針が固まり次第迅速に対応する。 ・0学期の有効活用と併せ、進路支援を具体的に年間行事に反映させる。
		数学の習得目標……数IAにおける公式・定義約100を2年0学期までに習得することを目指し、2年0学期から私大・国公立大にあわせた指導をすることで、生徒の進路実現を容易にする。 ①②③④ B		
		国語の習得目標……語彙力の習得に重点を置きつつ、文章表現の読解能力を育成するとともに、簡潔に論旨や自分の見解をまとめて、これを表現できるようにする。 ①②③④ B		
	基本的な生活習慣の定着と学校生活の充実	時間厳守、期限厳守の定着とTPOにあった適切な言動がとれるようにする。 ⑨⑩ B	B	集会等を通して生徒への意識付けをし、落ち着いた学年にする。
		社会規範の遵守に根ざした規範意識とその態度を育成する。 ⑨⑩ A		
		ボランティア活動をツールとした社会・地域貢献への意欲と大切さを育む。 ⑬⑭ B		
		各種学校行事を活かして、集団凝集性を高めつつ、コミュニケーション能力を身につける。 ⑭ A		
	自己管理・時間管理を通して、基本的な生活習慣を改善し、文武不岐を実践する。 ⑨⑩⑬⑭⑮ B			

2年	基本的な生活習慣と社会的常識の確立	学校生活全般を通して基本的な生活習慣の涵養に努め、生きるために必要なコミュニケーション力を身に付けさせる。 ①	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・週間課題の提出率が下がっているため、質や量を検討したい。 ・手帳の活用を活性化させる。また、入学時からの記録を進路指導に活用させる研究をする。 ・学習習慣を確立させ、学習量を増加させたい。 	
		こまやかな声掛けや個別面談を通して、生徒の個に応じた指導に努める。 ⑧⑩	A			
		保護者との連絡を密にして、生徒が落ち着いた学校生活を送れるようにする。 ⑨⑰	A			
	学習習慣の確立と集団学習意識の構築	毎時間の授業を大切にさせることを基本とする。1日2時間の家庭学習があたりまえにできるように、週間課題について研究し、授業の準備と振り返りが主体的に行われるような学習習慣の確立を図る。 ①③	B	B		
		お互いが励ましあい、切磋琢磨できるような学習環境の整備に努める。 ⑪⑫	B			
		充実した高校生活を送れるようにする	手帳を活用し、メモの習慣化を図る。同時に家庭学習時間などの定期的な振り返りを行うことで、自ら進んで自分にあった目標の設定ができることをめざす。 ④⑦⑧	B		A
			学校行事(修学旅行等)を通して集団への帰属意識や責任感を養う。それによって何が身についたのか、何ができるようになったのかが自覚できるように振り返りを行わせる。 ⑨⑭	A		
	部活動や生徒会活動、ボランティア等への参加を積極的に勧め、心身のバランスが取れた豊かな人間性と自己肯定感を育む。 ⑦⑮		A			
	将来の自分の創造	境高校が地域のシンボリックな学校であることを自覚し、その名に恥じない高校生活を送れるようにする。 ⑱⑲⑳	B	B		
		進路学習を通して、将来について具体的に想像させ、明確な目標設定ができることを目指す。 ⑦⑧	B			
3年	基本的な生活習慣の確立、社会的常識の確立	進路学習を通して、学校生活によって、将来の自分がどう変化するかを想像させ、高校生活の価値を高め、しっかりと目的意識を持たせる。 ⑦⑭	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み前は進路に対する生徒達の取り組みが甘かった。(後半はクラスが落ち着いて、進路実現に向けてよく努力している。) ・いかに「3年間を通して」生徒の人間教育を行わなければならないか。(その際、一方的な指導でなく、まず生徒を理解することが大切。) 	
		境高校としてふさわしい規則正しい生活習慣を継続させ、規範意識の向上を目指す。 ⑨⑩⑬	B			
		HRや集会などの教育活動全般を通して、団体生活における規律を遵守させる。 ⑨⑩⑫	B			
		日頃からの声かけや個別面談・教育相談を通して生徒理解に努める。 ⑧⑪⑫	A			
		保護者との連携をより密にして、信頼関係の構築に努め、落ち着いた学校生活を送れるようにする。 ⑧⑫	B			
	学習習慣の深化、学力の向上 進路希望の決定と実現	進学先、就職先で通用する社会的常識を身につけさせる。 ⑦	B	B		
		一時間一時間の授業を大切にすることや毎日の家庭学習の時間を確保することを促すことで、学習習慣を維持・発展させる。 ③⑤	B			
		日頃の予習・復習や習慣(週間)課題、各種の課外に積極的に取り組ませ、生徒各層の学力向上を図る。 ③⑤	B			
		進路希望先を主体的に決定させる。 ⑤	B			
	人間的成長の促進	進路希望先から求められる人物としての合格を目指させる。 ⑦	B	A		
文化祭・クラスマッチなどの学校行事に積極的に参加させ、集団への帰属意識や責任感を養うとともに、充実感や達成感を味わわせる。 ⑬		A				
最上級生となったことを自覚させるとともに、部活動と学習を高い次元で両立させる。 ⑭		B				
事務部	会計の効率的な執行	本校の教育目標に沿った、計画的かつ効率的な予算執行に努める。 ①～⑳	A	A	限られた予算の中では、適切な執行はできている。しかし、工事予算が伴う修繕箇所は、予算がつかない限り改修が難しい部分がある。	
	教育環境の改善	危険箇所の早期発見と迅速な改修を行い、明るく清潔な教育環境の整備に努める。 ⑬	B			
	適切な接遇	学校の窓口としての適切な接遇と、県民への奉仕者としての迅速的確な対応に努める。 ⑱⑲	A			
		不審者対応策として、受付簿への記入依頼と共に、玄関周辺の人の流れに注意を払う。 ⑱⑲	A			
	クレームに対しては、懇切丁寧に接し、関係部所への連絡等迅速的確な対応に努める。 ⑱⑲	A				

※評価基準 A:十分達成できた(今後とも積極的に推進) B:概ね達成できた(改善すべき課題がある) C:やや不十分(事業の見直しが必要) D:不十分(抜本的な改善が必要)